

ぬかづけ 日記 連載②



白糠町のPRのことばかり考えるわたし
白糠漬けの日常より。

地域おこし協力隊

キタダ ジュンコ
北田 純子



Profile

1973年11月23日生まれ。
千葉県千葉市出身
2019年4月から白糠町の観光をPRする地域おこし協力隊として着任。
趣味は映画鑑賞、読書、アウトドア。

■北田純子ブログ

「シラスカAtoZ」
<https://shiranuka.wixsite.com/atoz>



◆今月のおもしろかった映画「チャッピー」。この監督の「第9地区」も好きです。

次号で最終回！といっても 隊員活動は継続します

2019年の9月号から当誌で連載中の『ぬかづけ日記』ですが、来月が最終回となります！と申しましたが、任期中で辞めるわけではございません。来年3月末の満了まで町内外に『白糠ファン』をさらに増やすべく尽力させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。お願い申し上げます！

ヤナギダコ漁に乗船取材！ 漁に関わる皆さんに敬意

少し前になりますが、念願のヤナギダコ漁の乗船取材をさせていただきました。取材の内容は町公

式のエイスブックや町紹介ブログ「シラスカAtoZ」で既出ではありませんが、未見の方に向けて再編して、たこ縄部会の皆さんの取り組みを紹介させていただきます。
白糠漁協たこ縄部会では、資源の安定確保を目的として、40数年前から①産卵礁設置／1975年から柳だこの産卵調査を行い、近年は独自形状のコンクリート製産卵礁を設置。②放流サイズ設定／次世代の親だこ育成を目的に、出荷サイズを1・8kg以上に限定。

えます（広報しらぬか2021年1月号本連載ご参照）。資源保護と環境保護という両輪での取り組みが功を奏し、近年では年間50〜600斗という安定した漁獲が続いているそうです。
私が特に心打たれたのは、たこ漁に関わる『人そのもの』です。と申しますのも、たこ縄部会では、漁獲量の上限設定に加え、漁獲サイズを制限しています。せっかく捕らえたヤナギダコも、サイズが小さければその都度必ず放流しています。獲物をとり控えることは、収入のチャンスを手放すこと。それを乗り越えて海の未来を守るためのこれらの取り決めを遵守するまでに、さまざまな議論や葛藤があったそうです。たこ縄部会長の

山田さんは言います「昔のタコ漁は早い者勝ちで捕れるだけ捕るという操業をしていたけど、先を考えたらそれじゃ続かない。みんな生活がかかっているから、初めから全員が賛成してくれたわけじゃないし、きれいごとばかりで済んだわけじゃない。でも、たこ縄部会全員で取り組まなければ資源を増やせないってことで、みんな度々話し合っていて、今の形になったんだ。自分は部長なので音頭を取る形になったけど、結局たこ縄部会のみんなの理解と協力があったってこそだよ」と。
たこ縄部会の皆さんは『白糠の海とたこ漁の未来のために』という志をもって団結していることに、心から感動しました！